

補助犬と、歩むみち。

12月3日から9日までの1週間「障がい者週間」です。

障がいのある人の福祉について関心と理解を深め、障がいのある人があらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的としています。

今回は、障がいのある人の生活をサポートする「補助犬」について紹介します。



「身体障がい者補助犬」とは

身体障がい者補助犬（以下、補助犬）とは、目や耳、手足などに障がいのある人のサポートを行う犬のことです。障がいのある人が自立と社会参加をするための大切なパートナーです。

補助犬は「盲導犬」、「介助犬」、「聴導犬」の総称で、障がいやサポートの内容に合わせて特別な訓練をしています。また、補助犬には、身体障害者補助犬法に基づき認定された犬だけになることができません。

補助犬との関わり方

補助犬は、補助犬の利用者（以下、ユーザー）とともにさまざまな交通機関や公共施設、店舗などを利用します。そのため、街中などで見かけることがあ

るかもしれません。

しかし、ユーザーのサポートを行う補助犬にとって、ユーザーの指示はとても大切です。補助犬に対して、話しかける、食べ物あげる、触るといった気を引く行為は避けましょう。

身体障害者補助犬法とは

身体障害者補助犬法は、良質な補助犬を育成し、障がいのある人の自立と社会参加の促進を目的としています。

この法律は、補助犬の訓練・認定やユーザーの衛生・行動管理責任の他に、店舗などの施設側にも補助犬の同伴を受け入れる義務について定めています。

補助犬は獣医の指導を受けながら、体調や衛生の管理をしっかりと行い、健康と清潔を保っています。

問 生活福祉課 障がい者福祉担当

ほじょ犬マーク



身体障害者補助犬法の啓発のためのマークです。

身体障害者補助犬法により、施設側の受け入れは義務であり、補助犬の同伴を拒むことはできません。このマークは、補助犬について理解のあることを示すものです。

聴導犬

音が聞こえない、聞こえにくい人に生活の中の必要な音を知らせます。玄関のチャイムや電話の着信音、赤ちゃんの泣き声などを聞き分けて教える重要な役割を持っています。「聴導犬」と書かれた表示をつけています。



介助犬

手や足の不自由な人の日常をサポートします。物を拾って渡したり、指示したものを持ってきたり、着脱衣の介助などを行います。「介助犬」と書かれた表示をつけています。



盲導犬

目の見えない人や見えにくい人が街中を安全に歩けるようにサポートします。障害物を避けたり、立ち止まって曲がり角や段差を教えたり、静かに待機することも大事な役割です。ハーネス（胴輪）をつけています。



補助犬との生活

盲導犬ユーザーへお話を聞いてみました
実際に補助犬との生活をしている人は、日々どのように生活し、どのような場面
で助けを必要としているのでしょうか。

今回、盲導犬と一緒に生活する盲導犬
ユーザーの脇崎 恵子さんに話を聞きました。



脇崎 恵子さん

市内天拝坂在住。網膜色素変性症を患い37歳で視力を失う。今年で盲導犬ユーザー20年目を迎え、現在は九州盲導犬友の会の会長を務める。盲導犬の理解を深めるために小学校などで講演も行っている。

アニー

7歳。脇崎さんの3頭目となる盲導犬。

脇崎さんは、26歳で網膜色素変性症という病を患っていると判明。37歳で明るさの明暗だけしかわからないようになり、最初は何も見えず辛い日々を送っていたそうですが、ある日テレビで同じ病でも活躍する人の話を聞き、自身もそうになりたいと決心。最初は白杖の使い方などを身に付けようと市役所に問い合わせたところ、九州盲導犬協会を紹介され盲導犬ユーザーとなったそうです。

盲導犬との生活の中で

盲導犬と生活する中で困った場面や大変だった経験について聞きました。

盲導犬を連れて街に出ると、盲導犬に声をかけたり、勝手に触られたりすることがあるそうです。

「盲導犬は常にユーザーをサポートしています。盲導犬がハーネスをつけている時は仕事なので、盲導犬へ声かけしたり触ったりといったことはやめてほしいです」とのことでした。また、いまだに盲導犬同伴では入店拒否をされるところもあり、身体障害者補助犬法について説明しても受け入れられない店もあるそうです。

以前に比べると盲導犬の存在



ハーネスはお仕事中の目印です

や役割は認知されていると感じるそうですが、より制度への理解が進むことを望んでいるとのことでした。

脇崎さんの思い

「盲導犬といえど生きているので完璧ではなく間違ひもあります」と話す脇崎さん。時に、道を間違え、道に迷い困ることもあるそうです。盲導犬を連れてくる人が困っているような時や道路の横断の時は声をかけて欲しいとのことでした。

また、「盲導犬の利用を検討している人に対して、盲導犬は連れてくるだけで目立ち、声をかけてもらえることも多いです。何よりも一緒にいるだけで安心と幸せをくれる家族となりますよ」と言います。

インタビュー中もずっと脇崎さんの足元に寄り添い、街を歩くときも凛々しく脇崎さんをサポートしていた盲導犬のアニーちゃん。二人は、確かな絆でつながっているように感じました。

補助犬を見かけたら

補助犬に対して気を引く行為は避けましょう。

また、補助犬が同伴していてもサポートが必要な場面もあります。困っている様子を見かけたら、声かけや筆談でのコミュニケーションをお願いします。

お店の経営などをしている人

不特定多数の人が利用する施設などでは、補助犬の同伴を拒むことはできません。その上で、補助犬の同伴があった時のために、誰もが安心して楽しめる施設の環境づくりを心がけることが大切です。

補助犬の利用を希望する人

補助犬は障がいのある人が自立と社会参加をするための大切なパートナーです。補助犬を利用するにはいくつかの条件があります。補助犬の利用を検討している人は、生活福祉課障がい者福祉担当まで問い合せください。